

第 12 章（変化する米中関係）の重要用語

① 韜光養晦

中国が天安門事件で国際的孤立を深めていた時期に、当時の最高指導者だった鄧小平が唱えた外交戦略。国力の小さい間は目立った動きをせずに、力を蓄えること（経済発展）を優先すべきだという考え方。

② 台湾問題

中華民国が統治している台湾を、本土の中華人民共和国が「中国の一部である」と主張してその主権の帰属を争っている問題。中国は武力の行使を否定しておらず、その場合、アメリカとの武力衝突に発展する可能性もある。

③ チャイナ・カード

ソ連を牽制するために、中国との協調関係を前進させるというアメリカの外交戦略。外交を、トランプのゲームに見立てて、第三国との関係で「カード」として使う国を利用する。

④ 関与政策

アメリカとは異なる経済体制・価値観の国に対し、非軍事的手段を用いて民主主義や市場経済の利点を伝え、民主化と市場経済化、国際社会への統合を促進しようとする政策。

⑤ 抑止政策

自国の軍事力や友好国との同盟関係を強化することによって、潜在的な敵対国の軍事的脅威、とりわけ自国の挑戦しようとする意思を抑え込もうとする政策。

⑥ 東アジア首脳会議（EAS）

ASEAN10 カ国、日中韓、インド、オーストラリア、ニュージーランドによる首脳会議。ASEAN が中心的な役割を果たしており、東南アジア友好協力条約の調印が加盟の前提。2011 年からはアメリカとロシアも参加している。

⑦ 新安全保障観

1990 年代後半に中国が提起した周辺諸国との地域外交の理念。アメリカの軍事同盟を「冷戦の遺物」として批判し、対話や協力、平等に基づく国際秩序の形成をめざすとしている。

⑧ 責任ある利害関係者

2005 年にブッシュ政権が提起した対中政策の理念。台頭する中国に対し、国際社会において大国が果たすべき責任、とりわけ、経済ルールの遵守や軍事力の透明性の向上を求めた。

⑨ 戦略的経済対話（SED）

中国の経済的台頭と米中経済摩擦の激化を背景に、米中の主要な経済閣僚が参加して、両国の経済問題全般を議論した。2006 年末から 2008 年末まで半年に一度、全 5 回開催され

た。

⑩地域アーキテクチャ

アメリカが提起した、地域における二国間・多国間の多様な協力枠組みの総体をさす概念。アメリカは、自国の加わっていない地域枠組みの成立を念頭に、地域アーキテクチャ全体の開放性を求めている。

⑪G2 論

先進諸国の停滞と中国の台頭を背景に、特に経済問題において、先進国中心の G8 ではなく、米中二大国が協力して国際経済システムを主導していくべきだとする議論。

⑫米中安全保障・経済対話（S&ED）

ブッシュ時代の SED を強化し、安全保障問題を担当する外相と経済問題を担当する蔵相とが参加して、年一回、米中二国間、地域、グローバルな問題を議論する枠組み。

⑬グローバル・コモンズ

自由なアクセスの保障された空、海、宇宙、サイバー空間のこと。グローバルな経済活動の前提であり、アメリカは、近年、新興国や非国家主体によってその開放性が侵害されつつあると警戒している。

⑭真珠の首飾り

中国は、ペルシャ湾から南シナ海に至る海上輸送路沿いにあるパキスタンやミャンマーなどの国々に港湾拠点を建設して影響力の拡大を図っている。これらの拠点を線でつなぐと首飾りのように見えることから、米軍が名付けた。